

## 主権者教育で自覚を

福井朝日大法学部長が講演



主権者教育をテーマに講演する大野教授。8日、福井市のハピリンホール

若者に対する主権者教育を

はじめの一歩

テーマにした講演会が8日、福井市のハピリンホールで開かれた。岐阜県の朝日大法学部長・大学院法学研究科長の

大野正博教授は「主権者として自覚を持たせ、行動できる能力を身に付けさせる教育をすれば、選挙がいつあろうとも、若者は自発的に投票に行くようになる」と語った。

「18歳選挙権」の導入で重要性が増している主権者教育のあり方を考えようと、県内市町の選挙と明るい選挙推進協議会で構成する県市町選挙団体連合会が主催した。選挙委員ら約70人が聴講した。

大野教授は「主権者教育は決して難しいことではない。理想的な民主的市民を育成するための教育を、学習指導要領に影響のない範囲で少しでも意識し、工夫して盛り込めばいい」と強調した。「主権者教育は社会科に限らない」として▽国語で新聞の論説を読み解く▽英字新聞で日本との相違点を発見する▽家庭科で少子高齢化、消費者問題などを考える―ことなどを例に挙げた。「正しい情報を収集し、他者の意見を聞いて納得いくまで検討を重ね、自分の考えを決める習慣を身に付けさせてほしい」と語った。

講演に先立って開かれた県市町選挙団体連合会総会で、会長に福井市選管委員長の藤井健夫氏を再任した。任期は1年。  
(大谷貴洋)